サンタのクリスマス

天風 月歌

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

サンタのクリスマス

【Nコード】

N1556J

【作者名】

天風 月歌

【あらすじ】

クリスマス・イブ。

サンタクロースは世界中の子どもたちにプレゼントを配る。

大人になった子どもから、サンタへのプレゼント。

(前書き)

私が書いた詩から発展させてみました。
きつと、誰もが誰かのサンタクロース。
そんな思いを込めて。

12月24日。

空には白い雲が船の様に夜空を泳いでいる。
その彼方に、サンタクロースは住んでいた。

今日はサンタにとっても、一年で一番忙しい日だ。世界中に住む子どもたちに、プレゼントを届けなくてはならない。夜はとても短い。トナカイたちに『クリスマススの鈴』をつけると、トナカイたちは楽しげにしゃんしゃんしゃんと鈴を鳴らし始めた。雲は切れ、空にはまばゆいばかりの月の光が彼の道を照らし出した。サンタは小太り気味な身体を赤い衣服で包み、雪よりも白い口髭を丁寧に梳かす。プレゼントを詰め込んだ袋をソリに乗せると、トナカイたちは足踏みをはじめた。

「サンタさん、今年は去年よりも荷物が軽いね」

トナカイが言った。サンタは寂しそうに笑うと、

「それだけ、みんな大人になっていつているんだよ」

それはサンタのもとに一年を通じてくる手紙の量からも明らかだった。毎年、子どもたちからサンタへの手紙は減少していた。サンタのプレゼントは子どもたちからの手紙。子どもたちが希望を書き込む、手紙がサンタにとっては嬉しかった。サンタのために、一年良い子でいようとする健気な姿勢も。

しかし、子どもたちはいずれ、大人になる。大人たちはサンタに手紙を書かない。

トナカイは「そっか」と呟くと、サンタがソリに乗り込んだのを確認すると、力強く空に足を躍らせた。月の道を行きながら、星星が子どもたちの一日の様子を教えてくれる。

今日、あそこの子は泣いていたよ、ここの子は喧嘩をしたよ、と。それを聞いて、サンタはプレゼントの代わりに、悩みや悲しみを取り除く。

次の朝、子どもたちが笑ってくれるように。

しゃんしゃんしゃん、と鈴を鳴らしてサンタは空を駆け巡る。そろそろ、朝が始まる時間になってきた。残っているプレゼントは、あと一つだった。

「サンタさん、赤い屋根のおうちにいくの？」

まだ幼い星がサンタに聞いた。サンタはトナカイを止めて、そうだよ、と優しく言った。すると、星が不安げに話し出した。

「あそここの女の子、泣いてたんだ。友達に、サンタさんはいないんだって、言われたみたい」

「そうか……。わかったよ。あの子を見守っていてくれてありが

とう。星さん、メリークリスマス」

サンタは残っているプレゼントにそつと手を置いて、薄くなり始めた月の道に行く。

「ここか」

サンタはそつと、女の子の部屋に入る。

その子は手に靴下をぎゅっと持っていた。決して放すまいとするかのようにだった。サンタは女の子の机の上に、赤い箱と手紙が置いてあるのを見つけた。きつと、彼女の親からだろう。

女の子が持っている靴下にはプレゼントを入れることができないので、サンタは机の上に置こうとした。すると、手紙には「サンタさんへ」と綺麗な字で書かれていた。

(はて・・・わしにか?)

手紙はぱたぱたと動き出す。まるで、サンタに「あなた宛てよ」と言わんばかりに。

手紙はひとりでに、封筒から出てきて、サンタの目の前で手紙本文を晒した。

『親愛なるサンタクロース様。

毎年、子どもたちにプレゼントをいただきありがとうございます。
先日、私の娘が「サンタさんっているよね？」と不安げに聞いてきました。友達に「サンタさんはいない」と言われて、悲しんでいました。「ママたちもサンタさんに貰ってたんだよね？」と聞かれて私は思い出しました。いつも貰っていたことを。だから、これは私たちからの気持ちです。サンタさんは寝ているときにしか着てくれないので、顔を見ては言えませんが、サンタさん。ハッピーメリークリスマス』

その手紙を読んで、サンタは泣いた。
嬉しくて嬉しくて、涙が出た。
初めて貰った、クリスマスプレゼント。
大人になった子どもからの手紙。
そして、誰かに「ハッピーメリークリスマス」と言われたこと。

トナカイたちも泣いていた。
嬉しくて仕方なかった。
サンタはプレゼントを配り終えた後も、泣いていた。

サンタの涙は月の道に落ちて、雪になった。
雪が降る。
全てが白く、銀世界に変わる。

ホワイトクリスマスの朝、人々の笑顔はいつもより輝いて見えた。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n1556j/>

サンタのクリスマス

2011年1月28日02時32分発行